

第47回北区区政会議(R7.2.26)における意見への対応状況

[資料 2]

審判	委員名	担当課	意見	区政会議答弁	対応方針 (事後対応内容)
1	渡島委員	地域課	防災及び避難訓練について、小・中学校、高等学校では必須であるか。先日開催された地域の防災訓練について、民生委員、地域防災関係者、女性会の方が参加し、避難所における共同生活のルール的重要性などを話し合い、有意義な時間であった。中学生には助けを受ける側ではなく、助ける側としての人材育成が求められていることが伝えられた。このような訓練や周知活動をさらに広げ、若い人々にも率先して教え、実施していくことが重要と考える。	避難訓練については、小・中学校、高等学校では、火災などの災害に備えて年に1回の避難訓練が必須である。このほか地震や不審者対応を想定した訓練にも取り組まれている学校も多くある。中学校では災害時の避難所運営など助け合いをテーマに授業に取り組まれている学校もあり、中学生が習得した知識と技能が災害時にも発揮できると期待している。授業を通じて日頃から家庭でも災害について考える機会を持つことも重要と考える。	同左
2	笠井委員	地域課	防災について、区の運営の基本的な考え方に防災が横断的に関わることを日々感じており、防災が高齢者や子育て世帯、教育関係、コミュニティ全体において重要な役割を果たすと認識している。異なるコミュニティでも同じ思いを持つことで、協力し合うことが可能であると考えられる。防災予算の増加や防災庁設立に向けた課題として、人材不足、特にコーディネートや情報の伝達を担う人材が不足しており、行政と共に防災の仕組みを見直し、地域の人材発掘を進めることが重要と考える。	大阪府や大阪市では災害用備蓄物資の配備強化が進められているが、一方で地域防災に関わる人的資源が不足している状況である。人材の確保が重要であり、防災活動に共感し、地域で活動できる人材を増やすことが求められ、継続的に取り組むべき重要な課題として認識している。また、新たな物資の保管場所については、区役所や学校の防災倉庫においても不足しており、保管場所が問題となっている。	同左
3	木下委員	福祉課、子育て・教育課	地域での体操教室、食事サービス、ふれあい喫茶などの取組について、これらは楽しく、無理なく参加できる形で進めることが、重要である。参加者が「やらされ感」ではなく、自発的に取り組む意欲を持てるような政策が求められていると考える。子育てについては、地域の繋がりを強化するきっかけとして、防災の重要性を学ぶ機会が活用されているが、特に第1子子育て中の方々が引越してきたばかりの時に相談先を見つけにくい状況がある。そこに対する支援についても重要と考える。	地域福祉計画については、これまで地域で行われてきた活動を再評価し、地域住民が自ら考え、相談しながら地域を良くしていくことを目的としている。具体的には、百歳体操や見守りなどの活動を柱の下で再認識し、次のステップへつなげることが重要と考える。また、区民に親しみやすい表現や概要版の作成を検討し、地域福祉計画の本質や内容が担い手の方々に伝わるよう工夫を進めていきたい。	子育てについては、北区に転入された子育て中の方、子の出生後に区役所で手続きをされた方に対し、相談先、子育てサロン等が掲載された子育てマップ・子育て支援室のチラシを児童手当の手続き時に区役所窓口でお渡し、相談先・支援先の周知を行っている。引き続き、子育て支援に関する情報発信について地域の方と工夫して進めていく。
4	栗原委員	健康課	滝川地域では、はつらつ脳活性化教室が存在していなかったが、地域のまちづくり委員の方等の熱心な働きかけにより、教室の立ち上げに向けた取り組みが進められている。地域の住民の参加意欲が低かったが、他地域の教室を見学し、参加者が楽しそうに活動している様子を見て、意欲が高まった。この取組により、介護など期間が短縮され、医療費の削減に貢献できる可能性があると考えられる。	はつらつ脳活性化教室について、地域の方々と医療専門家が協力して立ち上げた取組であり、頭、体、心の要素をバランスよく無理なく効果的に活性化するプログラムである。区役所としても、この教室の情報を広く発信し、地域の方々に対し利用を促進していきたい。	同左
5	島村委員	健康課	健康寿命の延伸における取組のアウトカム指標について、既に達成されている数値が目標値となっている。より踏み込んだアウトカム指標の設定が必要と考える。具体的には、「すかいプロジェクト」との連携を通じて、「男性参加率」や「新規参加者数」など、参加者の裾野の広がりを判断できる指標を検討いただきたい。	アウトカム指標については、高い目標を設定することが参加者に「やらされ感」を与える懸念があるため、慎重に取り組むべきと考えている。現在の目標である26か所を維持することが重要である。「すかいプロジェクト」については、詳細が今後決定される予定であり、プロジェクトチームによる3か年の取り組みが進行中である。その状況を確認し、数値目標の見直しを来年度以降に検討していきたい。	同左

番 号	委員 名	担 当 課	意 見	区 政 会 議 答 弁	対 応 方 針 (事 後 対 応 内 容)
6	高 垣 委 員	福 祉 課	子育てサロンの現状について、参加者が減少している傾向にあるが、保育所に早期に入所する家庭が増えていることが一因と考える。参加者が少なくても、サロンでは来訪者の希望に応じて活動を行っている。 他の地域での状況は不明だが、子育てサロンが存在すること自体に意義があると考え、活動を続けている。	福祉課と子育て支援室では、主任児童委員との連絡会を定期的で開催し、子育てに関する情報を共有している。子育てサロンは、区役所の相談員が出張相談を行う場としても活用されている。引き続き、子育てサロンの情報を積極的に発信し、参加しやすい環境の提案や工夫を地域と協力して進めていきたい。	同左
7	笠 井 委 員	地 域 課	防災について、コロナの緩和に伴い、多様な地域活動者と交流を図っている。これにより、福祉の課題や学校関係者との自然な交流が生まれ、地域活動への理解が深まっている。特に、本庄のイベントでは防災に興味を持つ若い世代が多く、彼らを地域と行政が協力して発見し、地域カルテに反映することが重要である。さらに、区民カーニバルなどのイベントに彼らを参画させることで、やりがいを感じてもらい、地域活動の活性化が期待できると考える。	地域のイベントに出張ブースを設けることにより、広がりやつながりが生まれる可能性があると考えている。小さな取組から広がりを目指している。防災に限らず、様々なイベントでチラシや案内を設置することにより、新たな興味を引きつけかけとなる可能性があると考えている。	同左
8	西 野 委 員	福 祉 課	北区運営方針案において、地域福祉コーディネーターの活動目標件数が2万件とされているが、令和6年度の実績との比較はどうか。また、いきいき百歳体操やはつつ脳活性化教室の参加体制に問題があり、特にサポーターが1人の場所では運営が困難であり、サポート体制の整備が必要であると考え。また、サポーターについては、男性が少ない。サポーター養成講座が平日昼間に開催されることで、働く世代が参加しづらく、結果として高齢女性の参加率が高くなるのが原因の一つと考えられる。夜間開催などを検討していただきたい。	運営方針におけるアウトカム指標として、令和6年度に実績以上を目標としているが、6年度の実績はまだまとまられていない。令和5年度の地域福祉コーディネーターの実績は、見守りと相談件数を合わせて約3万7,000件である。地域福祉コーディネーターは各地域に配置されているが、相談件数のみならず見守り活動も含めて計上されている。区としては、地域福祉コーディネーター、社会福祉協議会、民生委員らによる見守り体制の構築が相談件数に寄与していると考えており、目標は決して過大ではなく、地域福祉計画の柱としてさらに充実を図っていく方針である。	令和6年度の地域福祉コーディネーターの活動実績は3万8,071件であり、前年度よりも実績は増加しており、少しずつではあるが、地域福祉コーディネーターの活動が浸透してきていると考える。今後一人ひとりに寄り添う相談・支援を目指し、見守り・相談支援体制の充実を図っていく。
9	二 口 委 員	地 域 課	1月27日に路上喫煙防止条例が施行されたが、その運用方法について、どのように運用され過料をどのように課すのかについて伺いたい。	条例の運用については、指導員が巡回し、路上喫煙を見つけた際に過料を課す形で行われている。ただし、市内全域を巡回することは難しく、主に駅周辺や人通りの多い場所を中心に指導員が活動している。運用はそのような形で行われていると報告されている。	同左
10	奥 委 員	地 域 課	防犯カメラの設置について、現状では各地域で防犯カメラが設置されているが、カメラの配置が重複している場合もあり、効率的ではない可能性がある。このため、北区全体を確認し防犯カメラの設置を再評価し、必要性に応じて設置場所を見直す必要があると考える。地域の意見や警察の協力を得て、無駄のない配置を進めることが重要である。北区の安心・安全を実現するために、これらの点を考慮した防犯カメラの運用を検討していただきたい。	区内には約800基の防犯カメラが地域によって設置されている。設置場所については、区が把握しており、単にカメラを増やすことが目的ではない。設置場所が集中している箇所や必要性の再評価が求められていると認識している。地域ごとの管理が行われているが、配置の見直しが必要であり、その際には協力をお願いしたい。	同左